

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成26年6月5日現在

機関番号：34310

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652053

研究課題名（和文） 謡曲の詞章から見る能作者の特徴—特に世阿弥とその時代—

研究課題名（英文） Identifying the author of the Noh play by considering a rhythmic structure -Especially, Zeami's era-

研究代表者

矢野 環 (YANO, Tamaki)

同志社大学・文化情報学部・教授

研究者番号：10111410

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）2,600,000円、（間接経費）780,000円

研究成果の概要（和文）：

形態素解析によって算出した、謡曲の詞章の品詞及び語彙のデータを元に数理的分析を行い、世阿弥作品の助動詞の使い方に特徴があることが判明した。さらに、従来の能作者の同定研究の中でも、議論の分かれる「兼平」が世阿弥作品の特徴を持つことが判明した。

また、文献学的、系統学的な結果も得た。

研究成果の概要（英文）：

Mathematical analysis was conducted based on the part of speech of phrases of a Noh drama and the data of a vocabulary which were computed by the morphological analysis. It became clear that usage of the auxiliary verb of the Zeami's work had the feature.

In the traditional Noh dramatist's identification research, various working hypotheses were submitted. It became now clear that "Kanehira" into whom an argument is divided had the feature of the Zeami's work.

Moreover, the philological and phylogenetic result was also obtained.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：能、世阿弥、拍子、クセ

1. 研究開始当初の背景

世阿弥作の主要な能楽に関して、詞章に形態素解析を行い、文字の頻度や品詞から世阿弥の特徴を検討するという研究は、研究代表者が始めたもの以外はなかった。形態素解析を行う際には、中古の和文系資料（古典や古文）を解析できる「中古UniDic」を基準辞書とし、謡曲の解析に必要な語についてはユーザー辞書を作成した上で、形態素解析ソフトウェア MeCab が適用できた。

2. 研究の目的

世阿弥作の謡曲が、リズム特にクセの部分から判定できるかどうか、また、堀池識語本の位置づけ、ならびに世阿弥自筆本の継承について考察を行うのが目的である。

3. 研究の方法

世阿弥作といわれている曲の特徴を探索するために『謡曲集上・下』を主体にして、六十三曲のクセの句ごとの音節構成の出現相対頻度を求めクセの主データとする。クセは主に地謡によって謡われ、曲の中心的な部分をなし、中世に流行した曲舞を取り入れたものである。そして、重要な部分であるからこ

そ、また、詞章と節付を同時に変更せねばならないことから、原曲の成立以降激しい変化をしていないと見込めるのである。

クセの部分の音節構成の破調（五七五七七から外れる調子）に着目するという観点は、横道万里雄の大学院生であった高橋美都（同志社大学文化情報学部講師）によって提唱された。

4. 研究成果

(1) クセ分析の対象は次の63曲である。

表1 対象とする曲とクセの句数

曲とクセの句数					
松風	28	春栄	41	芭蕉	35
吉野静	33	歌占	83	定家	32
自然居士	34	弱法師	36	玉葛	31
浮舟	33	敦盛	31	雨月	19
舟橋	22	清経	60	玉井	25
海人	13	実盛	42	遊行柳	34
昭君	35	忠度	32	道成寺	26
柏崎	61	頼政	26	紅葉狩	28
百萬	68	田村	25	船辨慶	26
丹後物狂	35	知章	39	羅生門	11
老松	48	朝長	40	安宅	41
高砂	39	通盛	31	夜討曾我	46
井筒	29	巴	20	阿古屋松	27
檜垣	36	経政	22	輪蔵	20
西行桜	29	箴	34	親任	19
鶴	39	兼平	53	初雪	17
蟻通	30	俊成忠度	33	笠卒都婆	34
砧	23	生田敦盛	35	八島	29
班女	45	盛久	29	山姥	60
花筐	45	江口	30	関寺小町	50
芦刈	38	雲林院	26	花月	34

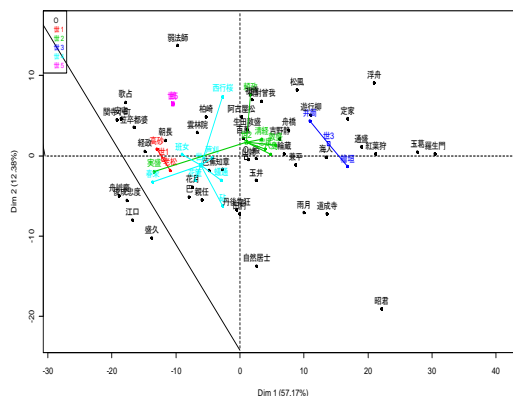


図1 クセによる分析

世阿弥の曲は番目ごとに比較的一まとまっているのに対して、その他の曲は散らばっている。

(2) 堀池識語本

また、堀池識語本の各流の現在の標準本の位置づけを行った

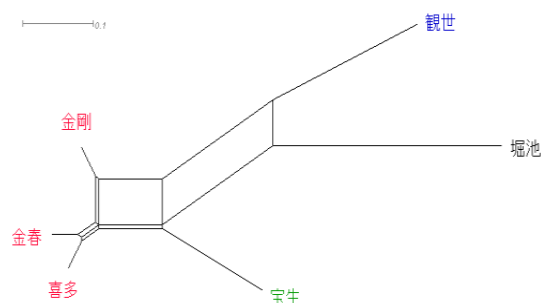


図2 堀池識語本の位置づけ

大きく三群に分かれた。底本（堀池識語本）は親世の系統であるために親世の近くに位置されているが、相互の距離は比較的離れている。また、下掛（金春・金剛・喜多）同士も近くに位置されている。親世が底本と共通先祖を示しているのに対して、親世と同じ上掛である宝生が単独に位置され、比較的、下掛に近い傾向にある。

(3) 世阿弥自筆本

世阿弥自筆本の内容がどう継承されたかをみると、次のとおりである。なお使用した曲と校合は次の通りである。

曲名	使用校合数
江口	62/80
雲林院	55/74
柏崎	60/131
盛久	63/141
弱法師	70/133
総計	310/559

表2 世阿弥自筆本（転写本を含む）



図3 世阿弥自筆本と各流の標準本

堀池識語本同様、三群に分かれているが、構成が異なる。底本（世阿弥自筆本）が大きく離れており、ここで取り上げた写本の場合の伝授先である金春と近く、上掛（観世・宝生）よりも下掛（金春・金剛・喜多）が古態をとどめている。

5. 考察

以上から総合的に考察すると、次の通りの結論となる。

- クセの主成分分析の結果、二番目物では実盛のみが離れて位置している。現行曲はかなりの改編がされているか、元々古作の改作なのかなど様々な可能性が考えられる。
- 五流の詞章比較分析の結果から、流派に

おける伝承は一律でないことが明らかになった。宝生流は上掛とされているが、詞章が下掛と類似することも多く、また世阿弥本に近い事もある。

- クセは作者の癖が現れると認められる。しかし、古写本のない曲の拍子・詞章の考察は系統関係に十分注意を払う必要がある

6. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介

矢野 環・岩坪 健・福田 智子

社会科学 通巻100号(第43巻第3号) 27-51

竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(二)：1 桐壺香～6 末摘花香

矢野 環・岩坪 健・福田 智子

社会科学 通巻101号(第43巻第4号) 39-61

〔学会発表〕（計1件）

Identifying the author of the Noh play by considering a rhythmic structure - Validating the application of multivariate analysis

DH2013, July 19, 2013, 10:30

Mito, Takahashi, Kana Tezuka and Tamaki Yano

〔図書〕（計1件）

矢野 環 将軍御成の「しつらい」について—柳宮御物絵画の和物への傾斜

日本美術全集 江戸時代 I 『狩野派と遊楽図』小学館 所収

矢野 環
〔産業財産権〕
○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

矢野 環 (YANO, Tamaki)
同志社大学・文化情報学部・教授
研究者番号：10111410

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：